

乞食集りて、摺火打にてたばこのむ、呵る體なし、

〔新增犬筑波集〕

にがく敷もたうとかりけり

皆人のまいるやふきの塔供養

たばこ法度の春の山でら

當世ふきのたうをたばこの代にのむ故なり、逢著僧房款冬花といふ詩もあり、

烟草產地

〔毛吹草〕三山城。刻多葉粉 花山多葉粉 伊賀 多葉古 丹波 野々村多葉粉 肥前

白多葉粉

〔本朝食鑑〕四味果 烟草○中

今諸州多産、攝州服部之産、葉色赤黄赤黒、有奇香異味、爲當世第一、和州吉野、萱村之産、亦葉色赤黒、有異香美味而次之、此兩品俱競美、其氣不烈不弱、多吸不損口舌、最少膠脂、泉州新田之産、亦有佳香、然氣弱者香多、氣烈者香少、亦次之、甲州之門前、小松、信州之和田、玄古、上野州高崎之産、葉色或赤黄、或黄黒、亦有異香、而不相劣、爲佳品、就中氣最烈者丹之周山、甲之石火箭也、常之赤土、世人有儘賞者、然味重氣濁、而不爲佳、肥之長崎者、雖烟草初起之地、其産葉色黄青、氣柔薄、有臭、而不足用耳、

〔大和本草〕六民用草 烟花○中 初山州花山ニ刻ミウル、花山タバコト云、又吉野ニ植フ、後ニ丹波ニ

ウフ、

〔和漢三才圖會〕九十九烟草○中

備後備中、及關東多出之、今攝州服部之産爲第一、泉河新田次之、上州高崎、和州吉野、甲州小松、萩原、信州玄古、薩州國分、丹波大野、皆得其名者也、

〔烟草百首〕これ和漢三 正徳二年の印本にて、いまだ此頃は常州野州の産は著ざるなり、本朝